

クオリティ大会を観戦しよう

とき 10月8日(日) 午前9時～
ところ 総合体育館

デモンストレーション行事として播磨町で開催されるクオリティ大会は、競技部門で一般ダブルスと小学生ダブルス、フレンドリー部門で多世代ダブルスで競います。

クオリティは、アメリカの馬てい投げと日本の輪投げをミックスして作られました。リング(輪)が目標棒に入らなくても、リングがボード上にあれば、得点となり次のプレイヤーの機転で、最後まで勝敗が分からない面白さとスリルがあります。

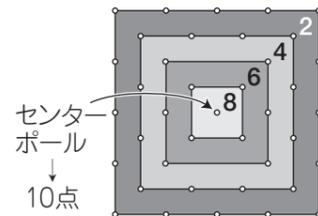
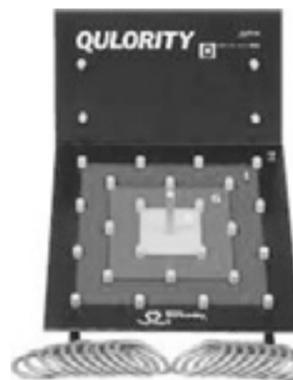
子どもから高齢者まで幅広く楽しめ、ウォーキングとほぼ同じ運動量があり、体力の低下を防止するなど健康的なスポーツです。



クオリティ競技のミニ講座

1. 競技の用具

ボードは木製で75cm×75cmの正方形、傾斜角度は30度。ボードから4m、6mの距離から、金10、銀10のリングをそれぞれ投げます。



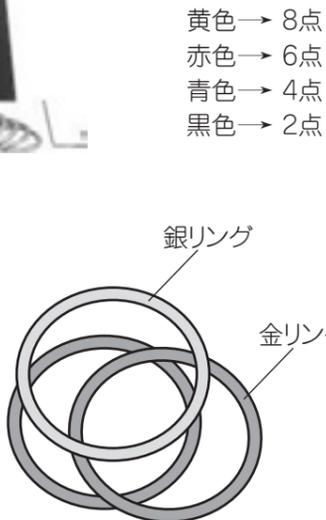
2. ダブルス(2人対2人)で対戦

競技は選手2人ずつで対戦し、先攻、後攻交互にリングを1人5回投げ、合計10投します。ジャンケンで順番を決め審判の合図でスタート。

3. 得点はキャンセル方式

自分のリング上に、相手のリングが3分の1以上、重なっている場合は得点としない方法で、お互い駆け引きをしながら競います。

〈例〉 金リングの上に、銀リングが3分の1以上重なった場合。一番上の銀リングによって得点がきまり、下にある2つの金リングは両方とも得点を失う。



“ありがとう”心から・ひょうごから
のじぎく兵庫国体は、”ありがとう”心から・ひょうごからをスローガンに前年大会から50年ぶりに、県内各地で開催されます。

阪神淡路大震災の復興に寄せられた、全国からの支援に感謝の気持ちを込め、人々との絆を大切にしたい出会いと交流の場となることを目指しています。

県内全市町で正式競技37競技、公開競技3競技、デモンストレーションとしてのスポーツ行事40行事が開催され、トップレベルの競技から、レクリエーション行事など幅広く行われます。

共に生きる社会を実感
国体に引き続き、全国障害者スポーツ大会として、のじぎく兵庫大会も「はばたこう」ともに今から「ひょうごから」をスローガンとして13競技が開催されます。

大会により、スポーツを通じて障害に対する理解を深め、障害者の社会参加を進めます。

のじぎく兵庫国体まもなく開会

大会旗・炬火リレーに沿道で声援を

9月18日(祝)

▶問い合わせ のじぎく兵庫国体播磨町実行委員会事務局
(生涯学習グループ内) ☎079(435)0565



9月30日(土)の開会式でわが国最大のスポーツの祭典、のじぎく兵庫国体が、続いて障害者ののじぎく兵庫大会が幕を開けます。播磨町では、国体のデモンストレーション行事として、クオリティ大会が開催されます。

また、開会に先立ち両大会旗と炬火が県内全市町をリレーし、播磨町では9月18日(祝)、大中遺跡で採火した炬火を、大会旗と共に総合体育館へリレーします。

当日は、沿道からの温かいご声援をお願いします。

大会旗・炬火リレーは、オリンピック大会の聖火リレーにあたるもので、県下10カ所で炬火を採火し、2つの大会の旗とともに県下、全ての市町をリレーし、多くの県民がランナーやスタッフとして参加します。

また、東播磨地域では、9月18日(祝)に播磨町の大中遺跡において、ジャンボ舞ぎりで採火します。

その火を、5区間60人のランナーにより総合体育館までリレーし、高砂市、加古川市、稲美町、明石市をつないで、9月30日(土)ののじぎく兵庫国体開会式場では、10カ所の火を集めて点火されます。

リレー走者



採火式にもご参加を
リレーに先立って、大中遺跡では古代からの舞ぎりによる、火起こしをします。星輝心によるダンスや播磨太鼓の演奏もありますので、ぜひお越しください。

泥だらけになって田植えをしたよ

播磨北小学校

とても貴重な体験をした5年生の子どもたち。この苗が大きく育ち、垂れるほどの稲穂が実ったら、みんなで稲を刈り、北小フェスティバルでのお餅つきが待っています。



▲しだいに手際よくなりました

それでも、さすが5年生。慣れてくるにつれ、手つきもだんだんと鮮やかなものとなり、中には、大人顔負けの子どもまで…。顔にはねた泥も気にならなくなるほどの頑張りでした。



▲あれ？曲ったかな

「ワァー。足が抜けへん」「気持ち悪い」「生まれ初めて田んぼに入った子どもたちは、もう大変な騒ぎです。簡単だと思っていた稲苗の植え込みも、曲がってしまったり浮き上がってしまったり、なかなか思うようにはいきません。

今年も着衣水泳を実施～命を守るために～

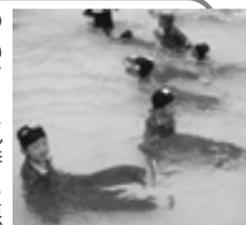
播磨南小学校

高学年では、ペットボトルなど身近にある物を利用して体を浮かせる練習もしました。これは、救助を待つ間に、浮く姿勢をとって水を飲まないようにするためのです。水の怖さを知り、自分で命を守る方法を学ぶことで、大好きな水と楽しく遊んでほしいと考えています。



▲ぬれた服は重い

「わあ、重たいなー。うまく動けないよ」「服がどんどんふくらむよ」「服がくっついて、気持ち悪いよ」「あ、靴がぬるぬるする、ぬけたー」水着の上から、服を着てプールに入った児童から次々と声が上がりました。南小学校では毎年、命を守る学習の一環として、着衣水泳を実施しています。初めは楽しそうにしていた児童たちも着衣のまま何回も泳いでいるうちに、だんだん疲れが出てきて、「前に進まないよ」「あー、しんどい」「おぼれるかと思った」という声に変わってきました。



「わあ、重たいなー。うまく動けないよ」「服がどんどんふくらむよ」「服がくっついて、気持ち悪いよ」「あ、靴がぬるぬるする、ぬけたー」

プールの学習は楽しいよ

蓮池小学校



「キャー」「冷たい」元気な子どもたちの声がプールサイドから聞こえてきます。長い業間（休み時間）も遊びに行かずに水着に着替えて待っていたので、楽しみます。

水泳の時間がやってきました。この時期だけのお楽しみ。「プールの学習は、命に関わります。しっかりとルールを守りましょう」と、教室で何度も約束をしてから入りました。

1年生「せんせいあのね、プールのしかなかったよ。わにさんで来たよ」3年生「今年から大プールに入りました。ふかくてびっくりしました。私は、わかあゆコースです。でもこんど入るときは、トビウオコースです。トビウオコースではどんなふうか泳ぐのかなあ楽しみだ」6年生「水泳の検定で、25分泳げました。めっちゃ苦しかったです。息継ぎができました。でもプールの水もちょっと飲んでしまいました。自由時間に友達と鬼ごっこをしました。楽しかったです」たくさん泳げるようになりました。

塵芥処理センターリサイクルプラザ見学とリサイクルはがきづくり

播磨西小学校



▲ペットボトルのかたまりだ

社会科の学習で4年生は塵芥処理センターとリサイクルプラザに見学に行きました。まだ乗れる自転車もゴミとして収集されたり、ペットボトル500個がひとかたまりで梱包されていたり、初めて目にするゴミの量に驚いていました。また、ペットボトル5個から半袖の服が一着できることも新しい発見でした。学校では、リサイクルプラザの人たちに教わって、紙すきではがきを作る体験をしました。牛乳パックをミキサーでかき混ぜ、はがき大の型箱の中で、紙をすいて、乾かしただけあがりです。色のついた紙を入れるときれいな模様になり、たくさん美しいはがきができました。リサイクルプラザの人の「金をかけずに手間をかける」という言葉で、ゴミを減らし、物を大切にしていこうと学んだ体験学習でした。

私たちの暑い夏

播磨南中学校



▲どの部も頑張りました
新チームで熱心に取り組んだ1・2年生、またひと回り大きくなりました。

この夏、最後の大会で熱い戦いを繰り広げた3年生、心を取り組んだ1・2年生、またひと回り大きくなりました。

中学校生活の思い出を多く卒業生が部活動について語られます。3年間ずっと続けたことを通して学ぶことが多かったこととなのでしょうか。1年目は、初めてのことで、体力的にもついていけない中、必死に先輩についていきます。2年目は、先輩の最後の大会に向けてのがんばりを心から応援しながら、先輩に近づこうとします。そして先輩の引退後の1年間、主役になった分、自分と向き合ったり、後輩の指導で悩んだり、苦しみながら、目標に向かって成長していきます。郡大会の応援に来られたある保護者の方が、「息子をこんなに成長させてくださったって、ありがとうございました」と言われました。そのとき、私は「子どもさんが素直に聴いて頑張ったからですよ」と答えました。親と教師が繋がって、子どもたちが本気になる、心に残るワンシーンでした。

奈良の大仏はでっかいなあ

播磨小学校



6月の5日(月)、6日(火)に奈良・伊勢方面に修学旅行に行きました。最初に、東大寺の大仏を見ました。社会の時間に学習したり、総合の授業で調べをしたりしてその大きさは知っているつもりでしたが、やっぱり本物の大きさにはびっくりしました。奈良公園の中は、班ごとの自由行動でした。鹿せんべいを持ってしていると、鹿がいっぱい集まってきてびっくりしましたが楽しかったです。お昼を食べる若草山の前のお土産屋まで、地図を片手にうろろしました。全員が時間内に無事たどり着くことができました。

平日ということもあり、よく歩いて乗り物にたくさん乗ることができました。お昼は、ミールクーポンを使い、自由にメニューを選べたので好きなものをおなかいっぱい食べることができてうれしかったです。小学校生活のすてきな思い出ができました。

完全燃焼！ 郡大会

播磨中学校



←集中！



一打入魂！▶

7月7日(金)と8日(土)に中体連の郡大会が行われました。この大会へ向け、各部は毎日の練習に力を注ぎました。特に3年生は引退のきっかけから、夏の厳しい暑さや冬の寒い季節にも耐え、努力を積み重ねてきました。結果は、団体競技では剣道部と女子バレー部が優勝しました。個人競技においても多数の優勝、入賞がありました。結果が出なかった競技もそれぞれ最後まで力を出し切っていました。納得のいく試合ができていたと思います。今後は、この経験を学校生活に生かし、さらに素晴らしい播磨中学校に発展して欲しいと思います。

球技大会・PTCS協議会

播磨南高等学校



▲熱戦の跡

7月13日(木)、14日(金)に夏季球技大会が行われました。女子はバスケットボール、男子はソフトボール。暑い中での球技大会でしたが、当日の何日も前から練習している気合十分のクラスもあり、どの試合も白熱していました。結果は、女子は1年7組が、男子は3年6組が優勝しました。

7月20日(木)、第1回PTCS協議会が行われました。生徒会は生徒代表として参加しました。初めての経験で緊張しましたが、保護者や地域の方、そしてOBの先輩にも会うことができました。生徒会は播磨南高校を支えていくための貴重な意見をいただきました。ここでの経験を2学期からの生徒会活動に必ず生かしていきたいです。

トピックス

夏休みチャレンジ教室 朝来市と交流

7月24日(月)〜25日(火)の1泊2日の日程で、播磨町から20人の子どもたちが朝来市を訪れ、朝来市の25人の子どもたちと交流を行いました。

初日は、朝来市で、魚のつかみ捕り、魚の下敷き作りや飯ごうすいさんを楽しみました。

2日目は、史跡生野銀山を見学した後、朝来市の子どもたちを播磨町に招待し、一緒に勾玉作りを楽しみ、親睦を深めました。



▲清流の中で魚を追う子どもたち

防災キャンプで学ぶ 自分の命を自分で守るために必要な知恵



▲ダンボールの家

8月3日(木)〜5日(土)の2泊3日、20人の小学生が参加して防災キャンプが実施されました。加古川市防災センターでの地震体験学習、着衣水泳、AEDによる救急救命講習など災害時に備えた体験をしました。

「普通のキャンプと違って楽しい」「バックに入った味噌汁もおいしかった」と、子どもたちは元気にプログラムをこなしていました。

※このキャンプは(財)自治総合センターのコミュニティ助成事業の助成を請けて、間仕切りダンボール、非常食を購入して実施しました。



▲コスモスの季節が楽しみ

水田川の西に花の名所が増えました

水田川を守る会が、阿門橋西側にある駐車場の一角に、赤と青のサルビアの苗とコスモスの種を撒きました。会長の古川弘一さんは「乾燥しがちな場所柄、これから水遣りに手間が掛かりますが、目立つ場所ですので、通りすがりの多くの人に楽しんで欲しいです」と、話されました。

厳しい暑さの中、播磨町夏まつりに 2万人が集まりました

7月29日(土)、浜田公園と総合体育館を会場にして、播磨町夏まつりが催されました。雪遊び会場の雪たまるまもすぐに、溶け出してしまふ厳しい暑さでしたが、夕方にはしのぎやすい気温になり、浴衣姿の住民も多く訪れてにぎわいました。

【お詫び】夏まつりには、多くの皆さまにご来場いただきまして、ありがとうございました。まつり終了後のバスの運行について、町の不手際から住民の皆さまにご迷惑をお掛けしましたことを、深くお詫び申し上げます。



▲大物を捕りたい



▲ごきげんです



▲播磨音頭やデカンショ節



▲ミニサスケ。届いた!

東播磨ふれあいネット (BAN-BANテレビ 11チャンネル)

播磨町・稲美町・加古川市・高砂市の情報番組です。

9月の放送予定 (収録場所 高砂市)

前半 9月4日(月)〜9月17日(日)

- 特集 のじぎく兵庫国体 (高砂市)
- ふれあいインフォメーション (各市町からのお知らせ)

後半 9月18日(月)〜10月1日(日)

- 特集 みんなで防犯対策 (加古川市)
- ゆうゆうライフ (稲美町)

放送時間 (第1・3月曜日の①以外は再放送) 30分番組

- | | | | |
|-------|--------|-------|--------|
| 月・水・金 | ①午前10時 | ②午後5時 | ③午後10時 |
| 火・木 | ①午前8時 | ②正午 | ③午後6時 |
| 土・日 | ①午前10時 | ②午後6時 | ③午後11時 |

今年の夏は特に暑かったですね。(毎年そう思っている気もしますが…)皆さんの夏はいかがでしたか? 私は、小中学生9人と一緒に当町の友好都市である中国天津市和平区を訪れました。来月号で詳しく報告しますが、和平区の小中学校を訪問したり、青少年宮という課外活動センターを訪問して、生徒間交流や文化体験などをさせていただきました。和平区の生徒のいきいきとした様子を目の当たりにし、参加した学生も次第に自分から質問したりと積極的に行動できました。8月下旬に訪問団員が再度集まります。みんなの感想を聞くのが楽しみです。

(C)XCN

わんぱくはりまっ子



ほんじょう あさひ 本庄 朝陽くん (1歳) 宮西

～ただいま、あんよの練習中!!～
誰からも愛され、誰にでも優しい子になってね
(お父さん・お母さんより)



募集

このコーナーに出ていただく「わんぱくはりまっ子」を募集しています。(未就学児) 広報担当まで電話を。またスナップ写真を送ってもらってもけっこうです。

としよかんまつり おもしろかったよ



恒例のとしよかんまつりが7月22日(土)に、中央公民館で催されました。

人形劇や、おはなしの部屋、パネルシアターなど、子どもたちは思い思いの部屋を渡り歩きながら、おはなしの世界を満喫しました。

人形劇を見た幼稚園児は、「ニワトリとコックさんが追いかっこをして、おもしろかった」、おはなしの部屋から出てきた小学一年生は「耳から聞くおはなしだけど、おもしろかったよ」と話してくれました。

だっせのおっちゃんのみい



▲第1火曜日に図書館で会いましょう

だっせのおっちゃんこと、深尾治郎さん(明石市在住)にお話を伺いました。だっせのおっちゃんの紙芝居は、小太鼓と昭和の中頃に耳にした歌で始まります。おっさん、おっさん、こねナンボ?の歌に、子どもたちは目を丸くし、続いて始まる昔話の名調子に引き込まれていきます。

「遊園地で紙芝居を始めたころ、アサリ売りの売り言葉を使って、砂出しすみのアサリだっせ、シシミだっせ、だっせ、だっせ」と、歌ってみると、子どもたちが「だっせ、だっせ」と、応えてくれたんです。これは、調子が出てええわ〜と思って、紙芝居前に、だっせ、だっせ」とやるうちにだっせのおっちゃんになったわけです。もう、50年前になりました」と、その時代の話とともに聞かせてくれました。

88歳になった今は、もう自転車に道具を積んで巡業するスタイルではなくなりましたが、毎月第1火曜日に図書館で、昔ながらの紙芝居を見せてくれます。